

令和 3 年度障がい福祉主要事業 進捗状況報告

※★は重点項目の関連事業

1 障がい者自立支援協議会の運営

- (1) 本会議
年 2 回（7 月、11 月）
- (2) 事務局会議
年 3 回開催（5 月、10 月、2 月（予定））
- (3) プロジェクトチームの進捗状況 ★
別紙 1 のとおり
- (4) 障がい福祉関係者連絡会
年 2 回（7 月、1 月）
第 1 回の結果は、別紙 2 のとおり。第 2 回は、令和 4 年 1 月 26 日（水）の開催を予定。

2 行政改革 重点課題事業の取組

- (1) 障害者手当の見直し
令和 3 年度第 3 回定例議会にて改正条例案が可決した。
広報（12 月号）で市民へ周知し、令和 4 年 4 月 1 日に施行する。
- (2) 障がい者タクシー料金助成事業の見直し
障がい者、高齢者等交通弱者の移動支援策の確保に向けた取組の一環で、障がい者タクシー助成事業等に関するアンケートを行った。結果を踏まえて今後の方針を検討していく（議題(1)イのとおり）。

3 避難行動要支援者制度の見直しについて ★

既存の避難行動要支援者登録制度の一部を見直し、要支援者登録者について避難支援等を実施するための計画（個別支援計画）の作成に向けた仕組みづくりについて、安心安全課及び長寿課と検討を進めている。

4 地域生活支援拠点整備事業の整備について

障がい者の重度化・高齢化や「親亡き後」を見据え、地域生活のための 5 つの機能を整備することにより、障がい者の生活を地域全体で支えるサービス提供体制づくりを進める。5 つの機能のうち、未整備である「緊急時の受け入れ・対応」について、引き続き検討し、令和 3 年度末の整備を目指す。

5 地域共生社会の実現に向けた重層的支援体制整備事業の実施について

多機関協働案件ケースとして関わっている案件は、1件。

精神障がいにより、適切な金銭管理及び債務整理が困難であり、今後の生活に関し、丁寧な本人への意思決定支援が求められている。

また、多機関協働案件と思われるケース1件について、地域共生推進課へつないだ。(10月末時点)

6 こどもの発達相談室を中心とした切れ目のない療育支援体制整備について★ 議題(1)ウのとおり

7 障がい者の健康管理支援について

通所系事業所(就労継続支援、生活介護等の10事業所が対象)への歯科健診について、11月に事業所へ受診の意向調査をし、今年度は12月及び1月に健診を予定。

8 その他

(1) 福祉有償運送ドライバー研修

令和3年10月10日実施。12名が参加。

(2) 成年後見制度利用支援事業 上半期実績

後見人等への報酬助成 2件

障がい者自立支援協議会プロジェクトチーム 進行管理シート

事務局

福祉課・子ども家庭課

プロジェクトチーム名	医療的ケアが必要な人への体制整備プロジェクトチーム				
設置期間(予定)	令和3年度末まで				
到達点	医療的ケアが必要な人(以下、「医療的ケア児者」という。)の生活状況を踏まえた支援量及び支援度を整理し、現状と課題をみえる化し、支援関係者間で共有する。また、継続的に医療的ケア児者を把握し、支援する仕組みづくりを行う。				
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、把握する医療的ケア児者の生活状況、課題の共有をした。 ・市内の医療的ケア児者への支援量(障害福祉サービスの身体介護の支給量)・支援度(医ケア判定スコア)の関連を整理をした。 				
	活動実績	項目	実績数値	項目	実績数値
		会議	1回		
		参加者	8人		
進捗状況に対する評価 (スケジュール通り進んでいるか、その原因、影響など)	医療的ケア児者の家族等に、必要な体制整備等について対面でのヒアリングを実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言により緊急事態措置が実施されたため、ヒアリングの実施を延期した。宣言が解除され、今後、対象となる方の同意が得られれば、可能な範囲で対面でのヒアリングを行っていきたいと考えており、その項目を検討している。				
進捗状況における課題や解決策、今後の見通し	ヒアリング及びアンケートの実施後、結果を踏まえた課題を整理する。併せて、医療的ケア児者を把握し、支援する仕組みづくりの検討をする。				

障がい者自立支援協議会プロジェクトチーム 進行管理シート

		事務局	福祉課		
プロジェクトチーム名	防災プロジェクトチーム				
設置期間(予定)	令和3年度末				
到達点	事業所における非常時災害計画の実効性を担保するため、定期的な内容確認の仕組みや、通所系及び入居系サービス提供事業所の具体的な災害対応・対策モデルについて調査し、まとめる。併せて、事業所による利用者自身の災害への備えに対する支援の仕組みづくりを行う。				
内容	・サービス種別や立地など、事業所ごとの特性に応じた災害対策について情報交換、共有ができた。 ・障がい者の自助の強化策として、「SOSカード」を導入することとし、実際の利用者をモデルに、その記載内容を検討している。 ・事業所の利用者の避難行動支援への関わりについて検討している。 ・図上避難訓練を行い、事業所の非常災害対策計画を見直した。				
	活動実績	項目	実績数値	項目	実績数値
		会議	3回		
		参加者(延べ)	22人		
進捗状況に対する評価 (スケジュール通り進んでいるか、その原因、影響など)	概ね計画どおりに進んでおり、12～1月に開催予定の障がい福祉関係者連絡会において、これまで検討してきた内容(災害時のコミュニケーションに活用するSOSカードによる自助の強化の仕組み、図上訓練の結果なども踏まえた事業所の防災対策モデル等)について発表することを考えている。				
進捗状況における課題や解決策、今後の見通し	・個人で持つSOSカードを、市が作成する避難行動要支援者台帳を補完するツールとして、市民に広げていく仕組みづくりが重要になる。 ・避難行動要支援者登録制度について、事業所にあまり知られていないことが分かった。今後、周知を行うと共に、利用者への登録勧奨の協力要請を行っていく。 ・今後も定期的に、防災対策や取組について、障がい福祉関係者が互いに学んだり、情報共有する場を設け、防災意識を高めていく必要がある。				

障がい者自立支援協議会プロジェクトチーム 進行管理シート

事務局	障がい者基幹相談支援センター
-----	----------------

プロジェクトチーム名	理解促進・交流プロジェクトチーム				
設置期間(予定)	令和3年度末				
到達点	障がいのある方の暮らしについて市民の方の理解が深まるよう、障がいのある方の地域参加・地域交流できる機会の創出、市民の方にわかりやすくかつ継続的に障がいに関する情報を発信できる仕組みを整える。また、障がいのある方及び家族が必要な時に情報を取得できる仕組みも整える。				
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の障害者に対する理解が不十分であり、当事者・当事者家族の暮らしに影響が出ている状況を共有したとともに、障がい理解につながる情報発信や交流の場の必要性を確認した。 ・障害福祉サービス(生活介護、グループホーム)を利用する方の暮らしを撮影させていただき、動画をHPや各イベント等で発信する。 ・動画の作成を名古屋学芸大学草野ゼミに依頼。 				
	活動実績	項目	実績数値	項目	実績数値
		会議	3回		
		参加者(延べ)	20人		
進捗状況に対する評価 (スケジュール通り進んでいるか、その原因、影響など)	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね計画通りに進んでおり、10月中に動画を完成させ、11月に配信する予定。 				
進捗状況における課題や解決策、今後の見通し	<ul style="list-style-type: none"> ・HPを活用した情報発信以外の具体的な周知方法の検討が必要。作成した動画を継続的に活用できる仕組みを整える。 ・交流イベント(障がいのある方の地域参加・地域交流)については、今後のPTで実施の時期や内容等を検討する予定。 				

障がい者自立支援協議会プロジェクトチーム 進行管理シート

事務局

障がい者基幹相談支援センター・子ども家庭課

プロジェクトチーム名	療育支援体制整備プロジェクトチーム				
設置期間(予定)	令和4年度末				
到達点	こどもに関わる各関係機関が連携し、こどもの発達相談室を中心とした、途切れない支援体制の構築(療育支援体制整備)及びこどもに関わる関係機関で構成される協議体の設置準備に取り組む。				
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・こどもの発達相談室、児童発達支援センター(こぐまっこ)の進捗状況について説明。 ・療育支援体制図概要版(案)、療育支援体制図連携フローイメージ(案)についてプロジェクトチーム内で共有し、主な関係機関(こどもの発達相談室、健康推進課、教育総務課、社会福祉協議会)の具体的な連携方法について検討した。 ・医療的ケア児の情報共有の必要性について検討した。 				
	活動実績	項目	実績数値	項目	実績数値
		会議	1回		
		参加者(延べ)	9人		
進捗状況に対する評価 (スケジュール通り進んでいるか、その原因、影響など)	概ね計画通りに進捗しているが、新たな課題把握や必要な検討事項の追加により、当初予定していた計画を一部修正する必要がある。				
進捗状況における課題や解決策、今後の見通し	<ul style="list-style-type: none"> ・主に3歳児健診後の児童・保護者に対して「こどもの発達相談室」の周知方法や対象者の具体的な基準を検討する必要がある。 ・義務教育を終了する対象者への「こどもの発達相談室」の具体的な案内方法について検討する必要がある。 ・個人情報使用の同意も含め、医ケア児ケース会議の具体的な実施方法について検討する必要がある。 ・こどもの発達相談室のリーフレットの見直し(幼児版・小中学生版)について検討する必要がある。 				

「長久手市障がい者自立支援協議会 第1回障がい福祉関係者連絡会」
報告書

1 開催日時

令和3年7月15日（木）午前10時30分から午後12時20分まで

2 場所

こどもの発達相談室

3 参加者

20名（14事業所） 15名（市役所・基幹相談支援センター）

4 内容

- (1) 状況報告：長久手市の障がい福祉に関する取組みについて
ながふく障がい者プラン
障がい者自立支援協議会
- (2) グループワーク：事例を通じ、事業所間連携や社会資源の創出について意見交換
- (3) 連絡事項：障がい者の健康診断とワクチン接種について
虐待対応マニュアルについて
- (4) こどもの発達相談室の見学

5 課題・反省

- (1) 学習・情報共有について
 - ・市や自立支援協議会の取組みについて知ることができてよかったという意見がアンケートから多数あり。
 - ・今後も、自立支援協議会のプロジェクト等の進捗を聞きたいという意見や参加したいという意見もあり。
 - ・虐待対応マニュアルや健康診断への反応は特になし。
- (2) 関係者間の交流について
 - ・アンケートでは、交流できる場ができたことについて、評価する声が多かった。
 - ・参加者全員の声を知りたいという意見もあるため、次回連絡会は今回とは別のグループ編成にする等の工夫が望まれる。
- (3) 連携の強化について
 - ・グループワーク開始前に事例を通して「連携」を主眼に話し合う説明はしたが、それぞれの認識にずれがあった。次回からはテーマに合った意見が出るよう、目的をより具体的に示すなどの工夫が必要。
- (4) その他
 - ・会場設営後に参加人数の変更があり、当日に会場設営を変更することになった。人数の事前把握を徹底する等の対応が必要。